(C)新潟日報社

満点自民 新制度で高笑い

県内小選挙区

苦節8年 六さん満願
県都決戦 関山さん散る

小選挙区新潟の陣は、自民六陣営の高笑いで終わった。1区の新人吉田六左エ門さんは激烈な県都決戦を制した。わずか一万票差で涙をのんだ前回選挙から三年、自民公認の看板を背負って雪辱を果たした。5区では田中真紀子さんが圧勝、3、4区でも稲葉大和さん、栗原博久さんが次々とサバイバルレースを勝ち抜いてゴールインした。また新選挙制度の下、〝国替え〟を余儀なくされた2区の桜井新さんは追いすがる新人を振り切って議席を死守。6区でも高鳥修さんが厚い基礎票に乗って辛くも逃げきり、自民六人衆にとっては最高の夜となった。自民党陣営に赤バラがずらりと並ぶ一方、新進党の公認、推薦を受けた各候補はあえなく全滅、社民党も戦後半世紀にわたって守り抜いてきた県内の議席をすべて失い、審判の夜は明と暗を非情に映し出した。

雄たけびのような万歳で喜びにわく吉田六左エ門さん（中央）と支持者―20日午後10時34分

新潟市長への挑戦から苦節八年―自民躍進の追い風に乗ってつかんだ、県都で一枚きりの「代議士切符」に、「六さん」は顔をくしゃくしゃにして喜びを爆発させた。

新潟市出来島の吉田六左エ門さん（自民新）の選挙事務所。午後八時を過ぎたころから、悲願達成を一目見ようと応援者が百人、二百人と詰め掛けた。熱気で室内はむせかえるほど。同十時半すぎ、選管情報で「当確」が伝わると「ウォーッ」と地響きのような歓声が上がった。

亡父・吉平夫人の光子さんをはじめとする事務所中央に陣取った吉田候補。万歳三唱の雄たけびを上げた後、「本当にありがとうございました。初心を貫くことができました。長い間支えてくれたことに涙ぐ上がる感謝の念を覚えます」。激戦でからした声を大きく弾ませた。前回衆院選で敗れてから始めた方代橋での朝のつじ立ち。「橋の上に三年」。悔しさをバネにした意地とこの二人連れは、笑顔と手を振り返してくれる温かい反応が支えだったという。

選挙期間中、訴え続けた「元気だせ新潟」の公約実現に、吉田さんは「これからは大好きな新潟市のためにこの身一つ、粉にして真っすぐに働かせていただくことを誓います」と力強く宣言。自民党県議団に市議団、吉平氏時代から一代にわたる熱心な「吉田衆」から代わる代わる握手攻めにあっていた。

トレードマークの白髪が深々と下げられた。午後十時五十分すぎ、新潟市西堀前通りの事務所に姿を見せた関山信之さん（無所属前）は「これだけ立派な陣立てを作っていただきながら、それを生かしきることが出来なかった。申し訳ない」と集まった五十人余りの支援者にわびた。「時間との戦いに負けたという気もする」と、労働組合から建設業界までの幅広い支持を得ながら、もう一歩で勝利を逃した悔しさもにじむ。

「負けとはいえ、この戦いで非自民の大きな枠組みが新潟に築かれたことは大きな前進。絶えざる改革への挑戦を続けていきたい」と「次」への決意を振り絞ると、支援者から熱い拍手がわいた。

前回衆院選に比べ、新潟市での得票を大幅に伸ばした川保幸雄さん（共産新）は「期待の強さと責任を感じる」と手ごたえを感じ取っていた。

市民新党にいがたの新人中山均さんは「目標には及ばなかったが、大健闘だ」と、草の根選挙の手ごたえに満足の表情を見せた。

区 栗原さん ゲリラ戦会心

4 秀央さん再起不発 疑惑後遺症ぬぐえず

当選のうれしさのあまり、支持者から贈られた花束を振り回す栗原博久さん―20日午後10時ごろ、三条市東三条2の選挙事務所

「みなさん、ありがとう」。民前）は満面の笑み。三条事務所に詰めかけた二百人ございました」。午後十時前にテレビで当確の報が流以上の支持者に両手を振るれると、栗原博久さん（自）と、会場は地響きのような「万歳」の声に包まれた。

前回は苦節十六年の末に八万以上の票を取りトップ当選。今回は自民公認の〝金看板〟は得たが、一度して早朝の戸別家回りやつじ立ちなどのゲリラ的な運動を展開したかけに喜びもひとしおの様子。

駆けつけた長谷川長二郎三条市長や嵐義明、巻田勝弥両県議らに祝福された栗原さん。「地場産業を守り、女性が安心して子供を産める社会を目指し、自国の農業を守るために努力したい」と力強く語った。栗原さんは興奮に沸く三条事務所を後に、地元新津の選挙事務所へと向かった。

元郵政相の実績と政治力を訴えた渡辺秀央さん（無所属元）の再起はならなかった。分厚い陣立てで臨んだ選挙戦だが、スキャンダルの後遺症はついにぬぐい去れなかった。

午後九時五十分ごろ、三条市の選対事務所に落選の報が流れると、約百五十人の支持者はほう然。渡辺さんはためらいなく立ち上がってマイクを取り「この責任と理由はすべて私にある。時代の流れを感じる。二十年間のみなさまの愛情に感謝します」と語り、支持者らに頭を下げた。

渡辺鑑彦さん（共産）は前回同党二候補が同じ区域で得た八千二百票をほぼ倍増の大健闘。「消費税増税への怒り」ときっぱり。

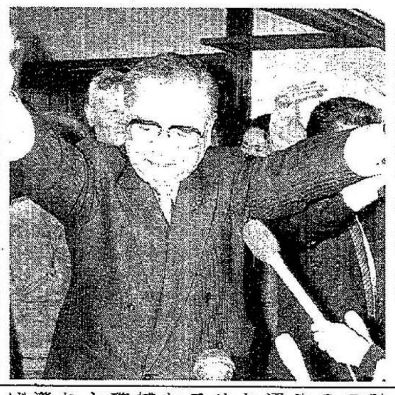
坂上さん冷や汗復活

比例代表当選

白川さん、村山さん、添原さん破顔

小沢さん沈痛「腹切りもの」

「政党本位」の選挙をめざし衆院選で初めて導入された比例代表でも、県内から次々と当選者が誕生した。純粋比例候補では相手との手に汗にぎるつばぜり合いはないが、当選の美酒はやはり格別。一方、小選挙区との重複立候補組では、4区の坂上富男さんが民主党



小選挙区の落選から一転、比例代表で復活し、当選を喜ぶ坂上富男さん―21日午前1時前

惜敗率二位で滑り込み、両のち暗れの笑顔をみせた。

「皆さんに地獄から救ってもらいました」。民主党比例の二議席目に滑り込んだ4区の坂上富男さんから、感極まって喜びの言葉があふれた。「いやあ、待ったかいがあった」。万歳の声を上げた支持者の目にも涙が浮かぶ。「途中で半ば当選は無理と思った。いままでのどんな選挙よりこの勝利は重い。三年前の返り咲き当選も本当にうれしかったが、今回はさらにうれしい」と、妻の賀枝さんとともに支持者に深々と頭を下げ、再び大きな拍手に包まれた。

比例代表に回った白川勝彦・自民党総務局長は、午後六時すぎから党本部でテレビのインタビューに答え、その後は本部内を駆け回り、局長室で詳細に全国の開票状況をチェックした。

田中真紀子さんを皮切りに県内小選挙区からも当選確実の知らせが次々に届くと笑みがこぼれた。午後十時二十分、自民六公認候補の最後に吉田六左エ門さんの当確の電話が入ると「いやあ、ほっとしたの一言。選挙前は二重丸は一人もいなかったんだから。県のため一致結束して仕事をする」と眞連会長として語った。また、比例代表一位候補として午後七時半前に当確のバラが付いた自身のことについては「やはり、これからは政治と政治家主導でことを進めていかねばならない」と決意を話した。

村山達雄さん（自民前）は午後七時半ごろ、秘書らが待つ長岡市柏町の選挙事務所に姿を見せた。余裕の戦いのせいか、表情は終始和やか。万歳の花束などのセレモニーもなく、控えめな当選風景となった。

「おれだけ当選して、ほかの候補を全滅させてしまった。腹切りものだ…」。比例単独一位で卓々と十三回連続の当選を決めた小沢辰男さん（新進前）は、新潟市内のホテルに設けられた党県連の開票速報会場で県内の開票状況を沈痛な表情で見守った。

三十七年間、小沢さんの選挙を支えた後援会の反発を押し切って自ら後継指名した一区の関山信之さんをはじめ、小選挙区の公認、推薦候補が次々落選し、支持者を前にしたあいさつでも「県連会長として申し訳ない」「私の責任だ」と小選挙区の全敗をわびて頭を下げるばかり。

「いっさいの役職を辞して出直そうにも代わる人がいないなんて…。一人残った私が及ばずながら新潟市、県の発展に全力を尽くすことしか責任をとる方法はないのではないか」と力なく話していた。

新進党の比例代表で三位に名簿登載された漆原良夫さん（新進新）は、午後八時すぎ、当確が報じられると、新潟市の公明県本部で「同志や友人、知人に支えられてここまで来ることができ、本当にうれしいの一言」と満面に笑み。

六人三脚 高鳥さん薄氷

筒井さん惜敗「衆院引退」

6区

「やったやった、連続十期だ」「入った」。当確が伝わった午後十時二十分、上越市木田の高鳥修さん（自民前）の選対事務所に歓声が上がった。

高鳥さんは、最初に「まな板の上のコイ。皆さんどうもありがとうございました」と一礼。いつもの温厚な顔をぎゅっと引き締め、開票速報板に次々と書き換えられる得票を見つめ続けた。

当選が決まるとバンザイのあらし。高鳥さんは破顔一笑。「都市部で苦戦し、心配かけました。高鳥と書いてもらう最後の選挙。ほんとにありがとう」と、深々と頭を下げた。

小選挙区。白川派との呉越同舟。スタートダッシュもいまひとつだった。そんなハードルを真り越えて、十期目の当選を勝ち取った。高鳥さんのあいさつに苦しかった選挙への思いがにじんだ。

「自民連合量の壁は厚かった」―。自民前職二人の連携の前に、筒井信隆さん（無所属元）はまた、少しの差で届かなかった。上越市藤巻の選対事務所は、「健闘したのに」と悔しさが広がった。

筒井さんは午後十時すぎ、事務所に現れ、約二百人の支持者を前に「もっと差が開くと思ったが、ここまで戦えた。前回は悔いが残ったが今回はない」と敗戦の弁。「衆院はこれで引退したい。負けたら最後と決めていた」と声を落とすと、支持者からすすり泣きがもれた。

喜びいっぱいにバンザイを繰り返す高鳥修さん（左から2人目）―20日午後10時20分、上越市木田の高鳥事務所

阿部正義さん（共産新）は「現在の政治に対する不信と、筋を通す共産党の姿が評価された」と前回に比べて大幅な躍進を喜んだ。

佐藤栄寿さん（無所属新）は組織力の前に及ばず。